

「企業等アンケート調査」結果報告

結果まとめ

くらしき作陽大学・作陽短期大学（以下、本学）卒業生が就職している企業等へのアンケート調査によれば、卒業生の印象については、社会人基礎力の視点「傾聴力」、「規律性」、「主体性」といった能力・スキルの評価が高かった。企業が採用にあたって重要視する点についても「主体性」、「傾聴力」、「規律性」が上位であり、同様の傾向が見られた。一方、入社後間もない卒業生を対象としたことも影響しているが、「問題発見力」、「働きかける力」、「創造力」については、卒業生の印象と企業の重要視する能力・スキルに差があり、低学年次からの取り組みを検討していく必要がある。

また、企業が採用にあたって重要視する社会人基礎力を身につけるために、学生時代に必要な経験は、「部活動・サークル活動」、「アルバイト」、「教養教育・専門教育（学業）」の3分野が高い結果であった。これはある程度の期間の中で、他人との関係性を築く経験が重要との考えが予測される。

今後の採用予定については、採用数は「増加予定」または「同様」との回答が多く、売り手市場が継続していく予測である。

学生への就職活動の支援協力については、「インターンシップ・ボランティアの受け入れ」、「学内就職説明会への参加」、「学内での業界勉強会への講師派遣」いずれも協力可能が多数を占める結果となっている。

これらの結果を踏まえ、今後、低学年次からのキャリア教育を充実させ、早期からのキャリア形成に向けた取り組みを行う予定である。

1. 調査の概要

本章は「2022年度 卒業生に関する企業アンケート調査」の結果報告である。調査に基づいて卒業生の在職状況や採用企業における評価、企業の求める能力・スキルや学生時代に必要な経験などを分析した結果を記述した。調査は、2021年度(2022年)卒業生の就職企業を対象に、2023年1月～3月にかけて実施した。回答数は160社であった。

調査した項目は、「卒業生の在職状況」、「卒業生の能力・スキルの評価」、「採用にあたっての重要視する能力・スキル」、「学生時代に必要な経験」などである。各質問項目に対する回答は、「とても評価する/とても重視/とても重要」、「やや評価する/やや重視/やや重要」、「どちらともいえない」、「あまり評価しない/あまり重視しない/あまり重要でない」、「評価しない/重視しない/重要でない」の5段階から1段階を選択する方式で求めた。

なお、以下で用いる割合(%)は、小数第2位の数値を四捨五入したものである。したがって、各回答の割合の総和は必ずしも100にはならない。

2. 調査の結果

(1) 作陽（くらしき作陽大学・作陽短期大学）出身者の印象について

「作陽出身者の能力・スキルについて、どのように評価されますか」の質問に対して160社から回答があった。回答結果は図1、表1の通りである。

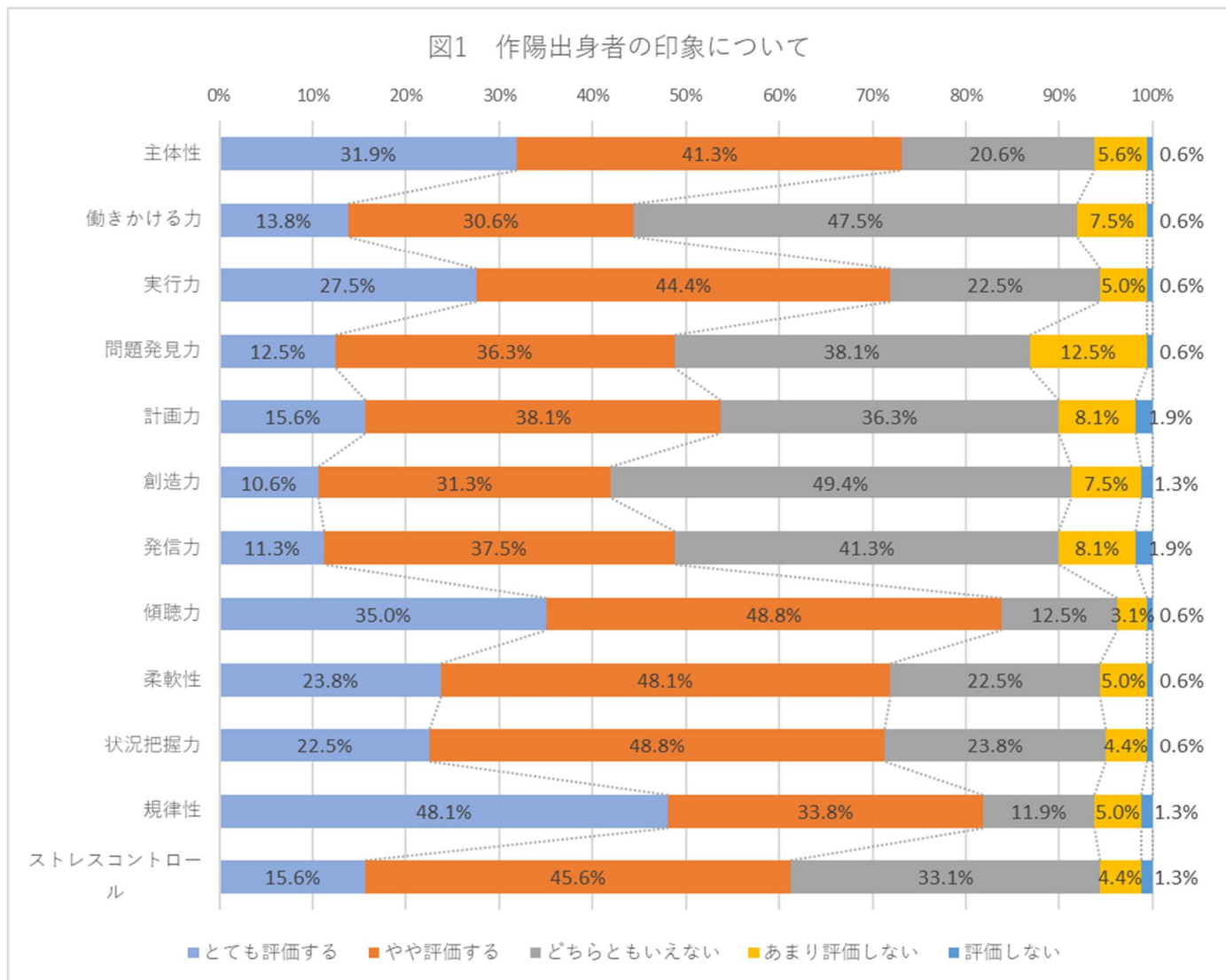


表1 「とても評価する」及び「やや評価する」回答率(上位3項目)

1	傾聴力(相手の意見を丁寧に聴く力)	83.8%
2	規律性(社会のルールや人との約束を守る力)	81.9%
3	主体性(物事に進んで取り組む力)	73.2%

(2) 採用（求める人材）にあたって重要視する点について

「採用（求める人材）にあたって重要視する能力・スキルについて」の質問に対しては160社から回答があった。回答結果は図2、表2の通りである。

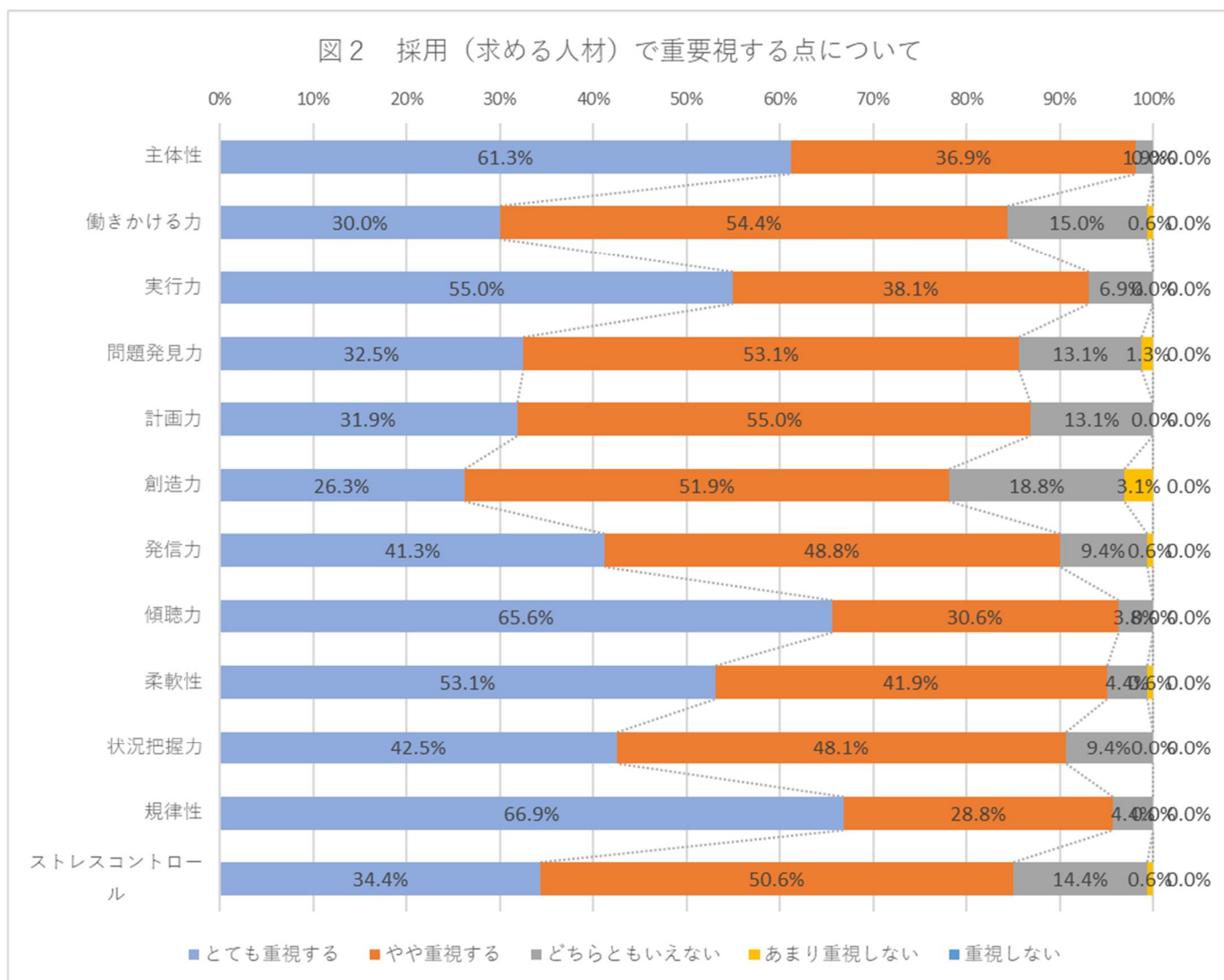


表2 「とても重視する」、「やや重視する」回答率(上位3項目)

1	主体性(物事に進んで取り組む力)	98.2%
2	傾聴力(相手の意見を丁寧に聴く力)	96.2%
3	規律性(社会のルールや人との約束を守る力)	95.7%

(3) (2) の能力・スキルを身につける上で、学生時代に必要な経験について

「学生時代に必要な経験について」の質問に対しては160社から回答があった。回答結果は図3、表3の通りである。

図3 学生時代に必要な経験について

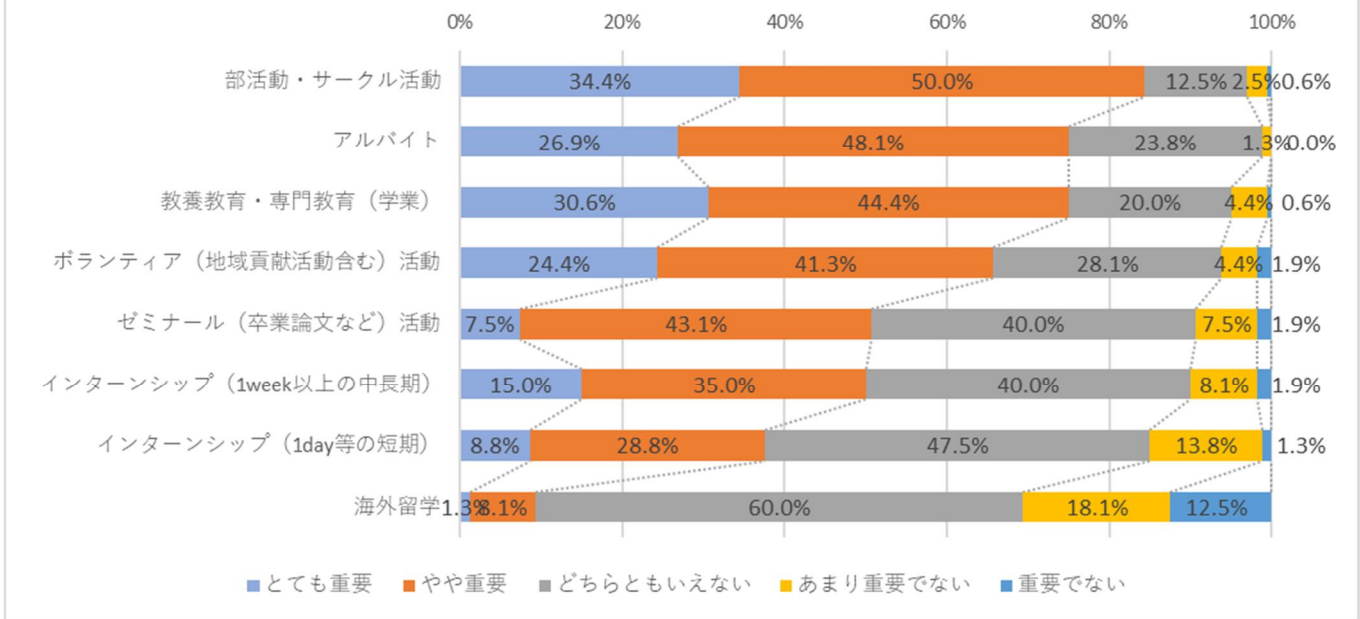
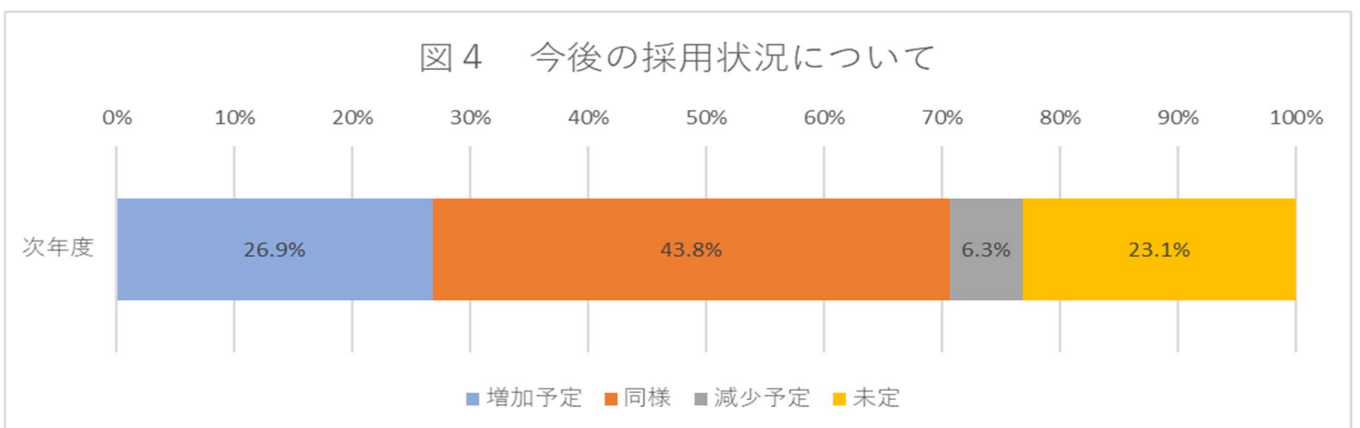


表3 「とても重要」、「やや重要」回答率(上位3項目)

1	部活動・サークル活動	84.4%
2	アルバイト	75.0%
3	教養教育・専門教育（学業）	75.0%

(4) 今後の採用状況について

「今後の採用状況について」の質問に対しては160社から回答があった。回答結果は図4の通りである。



(5) 学生の就職活動の支援について

「就職活動の支援について」の質問に対しては160社から回答があった。回答結果は図5の通りである。

図5 学生の就職活動の支援について

